

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和3年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

1	前年度 評価結果の概要	生徒・保護者・教職員のアンケート数値も高く、学校関係評価者からも高評価をいただいた。 ・昨年度の最終評価における課題として、学力向上及び働き方改革を挙げた。学力向上は生徒指導と両輪と位置づけ取り組んで来たが、「主体的・対話的で深い学び」の実現や家庭学習の習慣化が来年度も課題となった。働き方改革については昨年度改善されてきたが、学校関係者評価にもあるように、登校時間等の見直しが必要である。 ・学校経営計画、学校評価、教職員の自己目標申告書をリンクさせることについて、教職員の意識が十分でなかった。今年度は全教職員が、学校目標の具現化のために自らの役割を認識し業務を行うことができるような学校評価にしていきたい。
2	学校教育目標	We love KAWASOE! 自他を大切にし 志をもって 主体的に学び活動する 生徒の育成
3	本年度の重点目標	○あいさつの言葉が響く活気あふれる学校 ○生徒の主体的な学びと活動を支える学校 ○美しい学校 ○安全・安心な学校 ○保護者、地域とつながり信頼される学校 1 全教職員での協働体制と関係機関・保護者との連携により、校内研究の推進と特別支援教育の充実を図り、280人全ての生徒に学びと居場所を保障する。 2 キャリア教育と校内研修をさらに充実させ、志をもって、主体的に学び活動する生徒を育成する。 3 人権・同和教育、道徳教育の充実とチームでの生徒指導・教育相談体制により、自他を大切に生徒の育成を図る。 4 ふるさとに貢献する生徒を育成する。 5 健やかな体の育成を図る。 6 いのちを守る安全・防災教育を実践する。

4 重点取組内容・成果指標				5 最終評価				主な担当者
(1) 共通評価項目								
重点取組	重点取組	成果指標 (数値目標)	具体的取組	最終評価		学校関係者評価		
評価項目	取組内容			達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師80%以上	「授業づくりのステップ1・2・3 Vol.2」を踏まえた「書く活動」「話し合う活動」の適切な設定 ・UDの視点を生かした学びやすい学習環境づくり ・教職員間でのマイプランの共有及び校内研修等による取組の促進	A	・授業への取り組みの評価の結果は、教職員は3.2、生徒は3.6、保護者は3.3であった。 ・公開授業や全職員の研究授業を行い、授業研究会での積極的な学び合いにより、授業づくりの改善につながった。今後も継続して行い、加えてSDGsの教科横断的な取り組みや一人一台端末の活用を推進していく必要がある。	A	・県学習状況調査の結果は、学年によってばらつきがあるが、一定の成果を上げることができている。公開授業の実施も効果的であった。 ・生徒・保護者へのアンケート調査は、高評価である。	・学力向上コーディネーター ・研究主任
	○学習意欲の向上・学習習慣の定着	○評価の観点である「主体的に学習に取り組む態度」のB以上が70%以上 ○自学ノートに取り組む生徒の割合80%以上	・単元やまとまりの中で適正な評価を行い、生徒の学習改善や教師の指導改善につなげる ・自学ノートに取り組む生徒への支援	B	・家庭学習への計画的取り組みの評価は、教職員は3.2、生徒2.7、保護者は2.4であり、意識に差がみられる。 ・まいりレーンやマイプランの実施により、テスト勉強は計画的に取り組んでいる。しかし、テスト期間以外での家庭学習の習慣化ができておらず課題である。学年や教科での指導や課題、保護者の協力など改善や工夫が必要である。	B	・テスト期間中は計画的な家庭学習ができていたが、普段の家庭学習が充実していない生徒が多かった。 ・小中連携を行い、家庭学習の充実に取り組む必要がある。	・学力向上コーディネーター ・研究主任
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動。ふるさとを誇りに思う生徒の育成する。	○道徳に関するアンケート(「生命尊重」「他者への思いやり」「正義感」「郷土を愛する心」)において、肯定的な回答をした生徒70%以上	・人権集会や道徳に関するアンケートの実施 ・道徳科の授業づくりに関する校内研修等の実施 ・川副町出身の偉人の生き方を学ぶ地域教材の作成及び「ふるさとを思う心」に関する道徳教育の実施 ・地域と連携した校外でのボランティア活動の実施	A	・各年で計画的に実践できた。7月には道徳教育推進教師による研究授業を、11月には公開授業研究会(地域教材「佐野常民」)と校外でのボランティア活動を、12月には心の教育講演会と人権集会、人権に関する道徳の授業を行った。 ・評価の結果は、職員3.4、生徒3.6保護者3.6、総合評価3.5で達成度はAであった。	A	・全校一斉に佐野常民の教材を行ったことや「佐野常民と三重津海軍所跡の歴史館」の活用は意義があった。生徒・保護者の評価も高い。 ・今後、毎年佐野常民を題材とした道徳を全校で取り組んでほしい。	道徳教育推進教諭 人権・同和教育担当者 学年主任
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○校内生徒指導体制を整え、関係生徒及び保護者に計画的かつ組織的な関わりをもつ。 ○生活アンケートやいじめアンケートを毎月実施し、生徒現状を把握し、早期発見・早期対応につなげる。 ○安心して生活できる学年・学級だと感じる生徒90%以上	・いじめが疑われる事案を知った場合に、すぐに管理職へ報告と組織的に対応の実施 ・再発防止と被害者の支援・加害者の指導等、学校全体による取組の実施 ・職員危機意識の高揚による未然防止	A	・評価の結果は、職員3.8、生徒3.5、保護者3.3、総合評価3.6で達成度はAであった。 ・問題行動やいじめに対して、全職員で共有し対応することができた。また、授業中だけでなく準備時間や昼休みの巡回時に積極的に声をかけ、生徒理解に努めた。	A	・先生方は生徒に寄り添い、多くの時間を生徒とともに過ごしており、信頼関係も築けている。 ・いじめも初期の段階で対応してもらっているので、生徒も安心して登校できている。	生徒指導主事 各学年生徒指導担当者 学年主任
	◎生徒が夢や目標、志をもち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	○「将来の夢や目標、志をもっている」について肯定的な回答をした生徒(中学3年生)80%以上	・マナー検定を実施し、夢や目標を持たせる。 ・外部機関と連携したキャリア教育を充実させ、将来の夢を持たせる。 ・将来の目標達成に向けて、SDGsの講演会の実施し、生徒が持続可能な社会の担い手となる方向性を示す。	・評価の結果は、生徒が3.2、保護者が2.9、職員が3.5、総合評価が3.2で、昨年よりすべり上昇した。 ・佐野常民についての自作教材を作成し実践を行ったり、マナー検定を行ったりする等、自己肯定感の育成を行うことができた。	A	・評価の結果は、生徒が3.2、保護者が2.9、職員が3.5、総合評価が3.2で、昨年よりすべり上昇した。 ・佐野常民についての自作教材を作成し実践を行ったり、マナー検定を行ったりする等、自己肯定感の育成を行うことができた。	A	・自作教材の授業では、佐野が挫折を繰り返しながらも希望をもって頑張る姿をとおり、生徒達は頑張る意欲を持っていてくれると思う。 ・生徒・保護者の評価も高い。子供が保護者に学校で学んだことなどを話している。
●健康・体づくり	●「運動習慣の改善や定着化」	●授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上の児童生徒80%以上	・新体力テストの結果を基にした生徒自身による自己分析と課題解決の具体的な対策の立案 ・生徒委員会活動とのタイアップによる運動の習慣の調査と具体的な対策の立案と実施 ・健康診断の結果の把握と事後対応 ・けがの防止と熱中症対策の徹底	B	・運動部活動への加入率減少に伴い、運動習慣の二極化が目立った。また、授業においては、個人のレベルに応じた課題に取り組み、運動に対する前向きな取り組みが感じられた。 ・健康診断や保健学習をとおして健康に関する意識を高めることができた。 ・部活動や体育授業でのけがが多かった。今後も体力づくりの取り組みを継続していく。	B	・運動部の加入率は減少し、特に1年生は部活動にも社会体育にも所属していない生徒が多い。運動習慣の二極化は危惧される。 ・今後は、さらに取組を充実させてほしい。	保健主事 養護教諭 食育推進担当 保健体育教諭 運動部活動担当
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・出勤時刻の入力による時間管理能力の向上 ・部活動に係る基本方針に沿った活動と休養日の設定 ・定時退勤日の設定 ・生徒の登校時間の見直し ・放課後学習会の見直し	B	・部活動に係る基本方針に沿った活動と休養日の設定は100%達成できた。 ・全職員のひと月当たりの時間外勤務時間の平均43時間であった。全体的には佐野市教育委員会規則の45時間は達成できているが、各個人での達成はできなかった。	B	・様々な取組をとおして、教員の意識改革が行われており、時間外勤務の縮減がなされている。 ・生徒に何かがあるときは、対応が必要になり時間外勤務も増える。	管理職
(2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目								
重点取組	重点取組	成果指標 (数値目標)	具体的取組	最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	取組内容			達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○魅力ある学校づくり	○教育相談の充実、居場所づくり、学習の場の保障	○自分には心の居場所があると感じる生徒の割合80%以上 ○自分にあった学習をすることができると思う生徒の割合80%以上	・学活ノート等を活用した生徒との信頼関係の構築 ・教育相談期間の設定等による教育相談活動の充実 ・SCや学習支援員等との連携による個々の生徒に対する支援の充実や学びの場の提供 ・SSF等の関係機関との連携やSC・SSW等の専門人材を活用した不登校生徒の支援	A	・心の居場所があると感じている生徒の割合が90%を超え、相談しやすい環境を作ることができた。 ・SCの存在が保護者、生徒に周知され、生徒からの相談だけでなく、保護者からの相談件数も増えた。また、担任に相談する生徒も多く、悩みが深くないうちに解決することができるようになった。 ・引き続き、QU結果の要支援群等に属する生徒の観察や関わりを大切にしていきたい。	A	・学校に心の居場所があると回答した生徒の割合が90%を超えているということは、すばらしいことである。 ・学校の取組や姿勢が不登校減少につながっている。	教育相談担当 管理職
	○人間関係づくり コミュニケーション能力の育成	○安心して生活できる学年・学級だと感じる生徒90%以上 ○QUテストにおける学級満足度の割合60%以上	・全校一斉方式によるSSEやグループエンカウンター等の実施による学級活動の充実 ・相互扶助・支持的風土づくりの推進による望ましい人間関係づくりの育成 ・QUテストを活用した人間関係の構築及び学級集団のモラル向上の推進	A	・評価の結果は、職員3.4、生徒3.5、保護者3.4、総合評価3.4であった。職員、生徒、保護者共に昨年度よりも数値が上がった。SSEは新型コロナウイルス感染症対策のため、リモート授業などを活用し工夫しながら実施することができた。 ・QUテストの結果では、学級満足度の割合が1年生68%、2年生56%、3年生58%と1年生以外では目標の60%には届かなかったが、すべての学年が1回目よりも満足度が上昇しており、また全国平均の41%を大きく上回ったことは、各学級の取組の成果といえる。	A	・学校満足度は、全国平均と比較すれば、どの学年も非常に高い値である。心の教育の充実との関連もあると思われる。 ・学校は、多くの生徒が安心して生活できる環境にあるようだ。	特別活動担当 学年主任 学級担任
	○学校生活の向上(あいさつ・ルール・マナーに関する意識の向上) ○校内の環境整備・美化	○明るく元気なあいさつができる生徒90%以上 ○自問清掃検定の合格率80%以上	・生徒会や部活動による啓発活動や生活アンケートの実施等による生徒の意識向上 ・校内外におけるボランティア活動や日本赤十字活動への参加 ・トイレや手洗い場の清潔な環境維持についての指導の充実	・評価の結果は、職員3.6、生徒3.6、保護者3.3、総合評価3.5で達成度はAであった。 ・生徒会によるあいさつ運動や生活アンケートにより、学校生活の向上に努めた。 ・環境維持では、集会等で環境に関する話をするなどで意識を高めた。その結果、自問清掃に積極的に取り組む生徒の増加につながった。	A	・自問清掃には、すべての生徒がしっかり取り組んでいる。清掃時には生徒は一切話をせず、黙々と床をぞうきんで拭いている生徒の姿はすばらしい。 ・中学生は地域で会った時など、自らよくあいさつをしてくれる。	A	・自問清掃には、すべての生徒がしっかり取り組んでいる。清掃時には生徒は一切話をせず、黙々と床をぞうきんで拭いている生徒の姿はすばらしい。 ・中学生は地域で会った時など、自らよくあいさつをしてくれる。

●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志を高める教育

5	総合評価・ 次年度への展望	・校長のマネジメントのもと、各評価項目において成果が出ていると考えられる。学力向上(家庭学習の支援)以外の項目において、生徒・保護者・教職員のアンケート数値も高い。 ・昨年度の最終評価における課題として、学力向上及び働き方改革を挙げた。学力向上においては、校内研修で全職員1回以上の研究授業を行い、また、公開授業を行い全国各地にハイブリッドで配信した。加えて当校独自のSDGsの取組も配信した。その結果、「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指した授業づくりへの意識を高めることができた。しかし家庭学習の支援・習慣化が来年度も課題となった。働き方改革については、定時退勤促進日の設定や生徒の登校時間等の見直しを行い改善されたが、佐野市教育委員会規則にある時間外在校時間を遵守することができていない職員もまだいるため、個別に指導や声かけを行う。 ・アンケートでは、ほぼ全ての項目において、高い評価を得ることができた。全教職員が、学校目標の具現化のために自らの役割を認識し業務を行うことができた。
---	------------------	--